

# 所報

No.54

佐賀県教育センター

佐賀県佐賀郡大和町川上

TEL 0952-62-5211

## もくじ

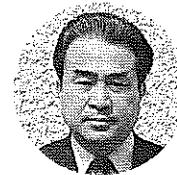
|   |    |
|---|----|
| ○ 卷頭言「教師と研修」  | 1  |
| ○ 公開講座概要「てんかんのこどもに対する考え方と指導」(国立精神・神経センター<br>武藏病院小児神経科部長 黒川 徹) | 2  |
| ○ 受講者の声と講座風景  | 5  |
| ○ 受講者への提言(佐賀大学 助教授 筒石賢昭)                                      | 7  |
| ○ 指導のチェックポイント—小学校学級経営・中学校社会—                                  | 8  |
| ○ 平成2年度長期研修生の紹介   | 11 |
| ○ 私のすすめる一冊の本  | 12 |

## 卷頭言

## 教師と研修

佐賀県教育センター 次長

森永勝俊



現在、21世紀をめざす教育の根本的改革がなされているが、この改革を担うのは直接子どもの教育に携わる教師である。その教師に対する世間の目は厳しいものがあり教師の資質向上、学ぶ姿勢が強く問われている今日である。臨教審答申にもこれを反映して、「専門職としての職責の重大性を自覚し、不斷の研鑽に努めることを求めたい」とあるが、教師の研修はその職責遂行上欠くことのできぬものであり、教師の生命ともいべきものである。

「教育は人にある」とか「教師が変われば子どもも変わる」といわれるが、子どもは自分で担任教師(教科担任)を選んで決めることはできない。この事実を教師は真摯に受け止め、認識を深くして責任の重大性を自覚しなければいけない。一自分じゃあまり自信がなかったテストだったけど、先生が「お前はやればできる人間なんだ。この次がんばれ」と言うんで、もう少しやってみようかなって気になった。—これはある教育誌で見た教師に対する子どもたちの声の一部である。子どものヤル気を引き出したこの教師のように専門的知識・技能・実践的指導技術、教育愛、使命感、豊かな教養と人間性等々人を教育する教師として

の資質向上を図るために絶えざる研修に努め、子どもや保護者等の期待と信頼に応えなければならない。

お茶の水女子大の森 隆夫先生は、その著“校長室考”で「教師は教科担任(全教科担任を含めて)である前に人間担任でなければならない。なぜなら、教育は人間を完成するためのものであり、そのための手段として教科を教えるのだからである」と述べておられる。そして人間担任機能(H)、教科担任機能(S)、つまりHS機能からみた教師のタイプを次の四つに分類されている。  
 1. HS型……人間担任機能も教科担任機能も高い教師。  
 2. Hs型……人間担任機能は高いが、教科担任機能は低い教師。  
 3. hs型……人間担任機能は低いが、教科担任機能は高い教師。  
 4. hs型……人間担任機能も教科担任機能も低い教師。さて、先生はどの型の教師だろうか。

「人を教えようとする者は、学ぶことをやめてはならない」ということわざがあるように、教師は常に自分に「人を教える資格ありや」と問いつづけ、学んでいく厳しさが大切である。教育の専門家として、「私の学級を見てください。」といえる確かなものを持つ教師になりたいものである。

## 公開講座概要

## てんかんのこどもに対する考え方と指導

国立精神・  
神経センター 武藏病院 小児神経科部長

黒川 徹



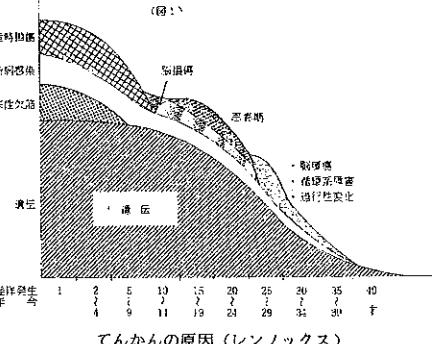
(黒川先生のご講演の中からてんかんについて抜粋して掲載します。)

## 1 てんかんとは

てんかんがどんな病気かと言いますと、神経細胞の起こる病気です。脳の神経細胞の放電で体は動くものですが、てんかんの場合は過度に電気が出て、ぱぱっと体が動いていくものです。てんかんの場合は、動かすまいと思っても動く、つまり過放電で起こっている訳です。

## 2 てんかんの原因について

てんかんの原因には、素因と誘因が考えられます。遺伝性があるものが全体の20%, 80%遺伝性がないわけです。もともと親から受け継いだものが素因、そしてこの素因に誘引あるいは環境が左右する訳です。高血圧になりやすい素因、つまり家系がありますが、そこでは塩など制限してとらないと、つまり生活を節制しないと誘因を避けることができず、高血圧になる可能性があります。病気にはこうした素因と誘因があり、てんかんだけが遺伝と言う訳ではありません。僕の先生は、ドクター・ドンプロッソといいますが、その上の先生がレンノックスと言います。その人は、下の図にある



あるようにてんかんの発病年齢は、0才の時に起こってくるものが一番多く、そして5才から10才で増えますが、後はだんだんと減っていくものだと言っています。つま

り子供の時に発病するのが一番多い訳です。

原因ですが、遺伝的な原因、生まれつきの脳の欠陥、生まれてから後つまり脳炎や髄膜炎などかかるから起こってくるもの、お産のときの脳障害で起こってくるもの、思春期に原因がなくても起こってくるものなどあります。20~30才では脳が退行して起こるもの、また脳に腫瘍ができるて起こるものなど、年齢で起こる原因も違ってくるものです。

どのようにして発作が起こるかといいますと、発作の域値がありまして、これが高ければ溢れでないで、発作にななりません。しかし、域値が低いと発作になりやすい訳です。これは、生れつきなもので、域値が高いのに、脳障害や心身の疾患などを起こすと、この域値がさがってきます。そうするとけいれんが起こりやすくなる訳です。例えば、同じ交通事故を起こして同じく頭をやられても、その交通事故でてんかんが起こってきやすい人と起こってきにくい人がある訳です。起こってきやすい人でも交通事故にあわないなら、てんかんは起こらない訳です。素因と誘因はこうした意味で、からむ訳です。だから、素因は治しようがないから誘因をきたさないようにしないといけない訳です。崩れても、薬物を投与して域値を高める訳であり、治すというよりも起こしにくくするものなんです。

## 3 発作の分類について

次に発作の種類には、部分発作と全般発作の2つがある訳です。体の一部に起こるのが部分発作といって、この時は運動の第一次中枢の所の反対側の所に刺激がある訳です。脳全体に刺激がある訳ではありません。脳全体をやられていないから意識があります。自分で分かっていながら発作が起こるという訳です。その中には、感覚発作や視覚発作があり感覚発作は、感覚の所に

発作の波が起り口がしびれたり、手がしびれたりする訳です。視覚発作は、ぱっとなにか光が見えたり、まっ暗くなったりすると後頭部の所の発作波が起って発作が起こる訳です。こうした発作は脳のそれぞれの中核に関係している訳です。

部分発作の中に精神運動発作がありますが、記憶がなくてあちこち動き回る訳です。記憶の中核つまり側頭葉がやられている訳です。

脳の左、右もやられて起こってくるものを全般発作といいます。つっぱってがくがくと起こってくるものを大発作といいます。大きい発作を大発作といつてはいけません。なぜなら、それが一番大きな発作かは母親でちがいます。つっぱって次にがくがくと起こります。こんな場合は脳全体をやられているので記憶がない訳です。意識が阻害される訳です。

全般発作の中に小発作というのがあり、これも意識がなくなる訳ですが、点頭てんかんともいって乳児に起こってきます。がくっときます。つまり、寝ているとがくっと手が上がったり、足がぱっと上がったりします。



絵1 点頭てんかん（ウエスト症候群）

点頭というのは、「うなづく」という意味でうなづき発作とも言い、別に礼拝発作とも言います。てんかん症候群の中に乳児期に起こってくるものを、ウエスト症候群とも言います。これは、ドクター・ウエストという小児科の先生が19世紀にいまして、この子どもが生後4ヶ月ぐらいになって発作が起ってきました。毎日毎日、発作が起きて心身の機能も衰えてきました。ウエストは毎日自分の赤ん坊の状態を記録してダンセットという一流の医学雑誌に載せた訳です。こうしたことから一般的にウエスト症候群という訳です。ウエスト症候群の後遺症として点頭てんかんを経験してきた障害児は非常に多いのではないかと思

います。

また、レンノックス症候群があります。これは、ぱたっと倒れたり、頭をがんとうつたりする失立発作です。お尻を打ったり、あるいはつんのめったり、いろいろなけいれん発作が起こるのをレンノックス症候群といいます。

レンノックス症候群の特徴の第1番目は、ぱたと倒れる強直発作です。そして何回も発作が起こる訳です。第2番目は、知能障害がある訳です。第3番目は脳波にも異常がある訳で治りにくいものなんです。初めは乳児早期てんかん性脳傷と言われて、それから点頭てんかんに1才前ぐらいになって、それからレンノックス症候群になります。同じ病気でも年齢によってずっと変わってくるものです。脳の成熟とともにてんかん発作は、変わってくるものなんです。

## 4 家庭への影響について

診断の告知で、「てんかん、本当にてんかんか。」と、最初は、否定する気持ちがあります。本当に分かると、罪悪感から「親が悪いんだ。」自分のささいな欠陥、ちょっとした事に「俺が悪かったんだ。」と思い込んで絶望に引き裂かれます。そして、ショックと拒否と怒りが起こってくる訳です。そこから、家族の崩壊もあります。自分が担当している家族では、てんかんと分かってから、おとうさんが「俺は、5時になったら必ず帰る。」子供のために全力で一生捧げようとする親もありました。

経済的な負担として、いろいろな補助は出ていると思いますが、大変です。病院で待つ時間的な負担もあります。そして、肉体的精神的な負担もあります。実際に動き回らなければいけない自分の負担もある訳です。この負担に耐えられるかどうか。ここに家族が再起するか、崩壊するかの分かれめがあります。

## 5 日常の生活の留意点について

日常の生活で注意しなくてはいけない事に、疑似発作があります。発作が起こっていないのに、見えないところで起こっているのではないかと心配することを疑似発作といいます。あまりにも、発作に神経質になっていると、例えば子供がご飯を食べて

ものを言わないと、「けいれんではないか」「〇〇ちゃん」と言っても返事をしない、これは、発作ではないかと思う事です。また、手がぴくぴく動くと「けいれんではないか」と思ってしまう訳です。病院では、本当のけいれんではないのに薬をどんどん飲ませる。そうすると、ふらふらしてけいれんに似たようになる訳です。また、きついとか注意力がないとかの異常をすぐてんかんのせいにしたがります。こうしたことにより用心しなければいけません。

日常の生活では、普通の睡眠を取ることです。そして普通の食事を取ることです。規則正しい生活を行うことです。本人が経験した誘発因子を避けることです。水をたくさん飲んで発作が出るような人は、水を多く飲まないようにすることです。睡眠不足で発作が出るような人は、できるだけ睡眠不足にならないようにすることです。そして、過保護を避け服薬を励行することです。そして、副作用の予防のためには、運動をさせたり、歯をみがかせたりすることも大切です。

#### 6 教育上の留意点について

教育上の留意点としては、一人ひとりのてんかんが違うので一人ひとりに違った対応を考えることです。生徒への露見を普通学級では特に注意する訳ですが、体育の授業では、特殊教育研究所の永峰先生による基準というのがありまして、発作の頻度が1年に1回ぐらいであれば、普通に体育参加させ水泳も参加させます。月に1回ぐらいでは、気をつけて監視をしながら参加させます。週に1回ぐらいであれば、常に監視をしながら参加させます。こうしたことを見頭においておくことが必要です。

予防接種については、主治医に聞かなければいけない訳ですが、できるだけてんかんの子にもうつうがいいと思います。

てんかんを学校に知らせない親がいるわけですが、その親を決して責めてはいけないと思います。世の中は、「うちの子は、てんかん」と言ったらマイナスの方向へしか働かない訳です。そういう場合、身を守ってやれるのは、親です。学校に知らせる知らせないは、親の判断です。もちろん学校

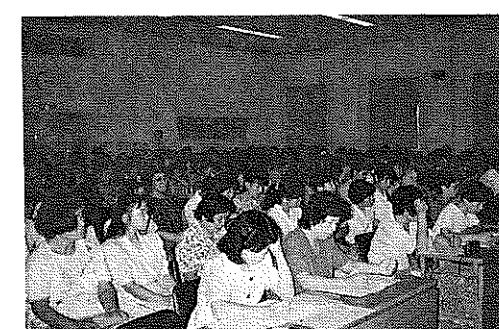
は知らせてもらわないと困る訳ですが、最後の学籍簿に一度こんな病氣があると書かれるともう消えないのです。もちろん治ったという診断書を出せばいいそうですが、治ったと言うことで、後でのいろいろな配慮をしなければいけません。

発作の時、薬を飲ませるか、病院に連れて行くなどは前もって親と話し合っておく必要があるのではないかでしょうか。

てんかん発作で知能が下がるかといいままで、もともと知能が正常であり、発作が5年以内に止まれば、知能が下がることはありません。全般的に発作が長く続ければ続くほど、知能は下がりやすい訳です。これは、発作のせいもありますが、薬を多く飲んだ場合こんな事が起こりやすい訳です。

#### 7 てんかんの性格について

最後に、てんかんの性格は、ねちねちし



(真剣に聞きいる先生方)

ているとか、爆発しやすいなどと言われていましたが、今日では、これらが、てんかん患者の特徴的な性格とは言われません。

てんかんの原因になった脳障害や、薬でこうした性格になったりするものです。前に言いましたように、側頭葉や大脳辺縁系の情緒などに障害が起こって粘着性や爆発性が出てきます。てんかんであるがゆえに、心理的・社会的な負担があって、こうした性格になる訳です。病気を長くかかえていると、どうしても心理的圧迫があって粘着性や爆発性が出てくるものです。つまり、慢性疾患をかかえた人は、どうしても社会的な負担があってこうした性格になりやすい訳です。てんかん性格は、ないと言われています。

(文責 天野昌明)

#### 研修講座

## 受講者の声と講座風景

本年度実施予定126の講座も10月末日までに100の講座が完了しました。研修講座は、講義、研究発表、演習、研究授業、実験、巡査、野外研修など多様な方法で行われました。定員2,862名に対し、申し込み者3,012名、受講者2,830名でした。受講希望は、小学校音楽、小学校国語、小学校図画工作、小学校理科（野外観察）、症例別II（登校拒否）、特殊教育I、教育相談基礎などの講座に、定員を大幅に上回るものがありました。受講をされた多くの先生方の中から、5名の先生に“受講者の声”として、感想を述べていただきました。また、講師としてお招きしている佐賀大学の筒石賢昭先生に“受講者への提言”をお寄せいただきました。紹介いたします。

#### 図画工作科実技講座に参加して

伊万里市滝野小学校

教諭 田中 弘子

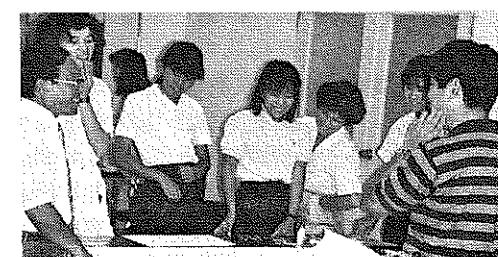
今、教室は、自作の花びんに飾った金木犀のほのかな香りに包まれている。この花びんは、実は、実技講座で作り、焼いてもらったりしたもので、自分の作品かと疑うほど出来ばえがいい。

デザイン、版画、工芸といずれも実技を通して、基礎的、基本的事項を学ばせてもらった。そして何より、自分が知らなかつた技法を習ったのが収穫と言える。

夏休み、未完成だったデザインを仕上げ、さっそく教室の子どもたちに参考作品として提示した。「えっ、これ先生がしたと？」「きれいかね。」と声が飛びかう中、ちょっとばかり自己満足した私である。

版画では、共同製作ということで、初対面の先生方と試行錯誤しながら刷り上げた。やってみるとなかなか楽しいもので、時のたつのも忘れるほどだった。

私達教師は、毎日の授業が勝負だとよく聞かされる。それには、教材研究を惜しん



(小学校図工科講座風景)

ではならないが、ついつい怠りがちである。図工においても、教師が自ら描き、創作する教材研究も必要ではないかと思った。

これからは、子どもと共に、楽しんで図工に取り組む教師でありたいと思う。

#### 中学校パソコン中級講座を受講して

鹿島市立東部中学校

教諭 白仁田 茂

講座は、CAI、CMI等の基礎理論の学習後、実際に教材作成支援ソフトを使って各自教材開発に取り組む内容であった。はじめて使うソフトであり、わからぬところはこの時とばかりに聞きまくっての習得であった。画面作成が徐々にすすむにつれ次第に嬉しくなり黙々と集中して取り組む体験も久しぶりに味わった。講座の最後には自作教材の発表会があった。笑いあり拍手ありで盛り上がり楽しく終えることができた。

今回、この講座を受講し、一通りの操作技術を身につけたことはもちろん、教材の本質は何か、コンピュータをどこでいかに生かすべきかの視点で改めて教材を見るようになったことが大きな収穫であったようになつた。研修後、授業にそついくつかソフトを作ったが、教材作成支援ソフトではやはり思うように表現できない面もありBASIC言語によるプログラミングに挑戦中である。

学校でのコンピュータ教育も加速度的に進みつつある。ソフト開発をいかにすすめたら良いかが今後の大きな課題である。

乗り遅れないようにと思っている。



(中学校パソコン中級講座の実習)

**有意義だったマイコン制御講座**

唐津工業高等学校

教諭 井手 三男

この講座を受けようと思ったのは、マイコン制御に興味があり、本校の制御実習に、これを取り入れたいと思ったのがきっかけだった。

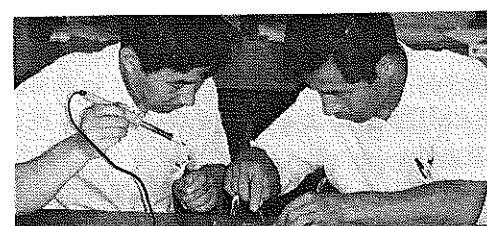
講座の講義、実習を通して、今まで取つつきにくいと思っていたマイコン制御が、身近なものに感じられて、この四日間は大変有意義であった。

最初にインターフェースを製作、これをマイコンに接続、テストするとき一挙の不安があったが、マイコンが故障することなく、うまくいった時には、ほっと胸をなでおろした。

製作実習の後は、BASIC、アセンブリによるプログラミング実習があった。盛りだくさんの例題で少々消化不良のところもあったが、講師の先生の親切丁寧なご指導で、落ちこぼれることなくなんとか講座を修了することができたようだ。

また、夜の研修では参加された先生、講師、センターの先生方との懇談は楽しい思い出になった。

今後は、この研修で教わったことを是非生かして、生徒の為に少しでも役立てたいという気持ちで一杯である。



(マイコン制御講座の実習)

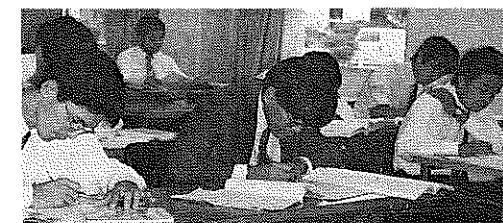
**研修講座を受講して**

佐賀西高等学校

教諭 挂園 真樹

教育工学的手法を取り入れた授業設計の原理と方法についての講座を受講しました。日常の授業では、学習指導案を書くという作業の必要性を感じながらもなかなか実行することができず、生徒の反応に対してついいつい遅れがちな対応をしてしまう自分自身の授業設計のいたらなさを反省することができました。

実際の演習では、目標行動やフローチャートなどを意識した指導案作りを体験させていただき、僅かながらも授業の組み立て方がわかったような気がします。また、他校の先生方のよく工夫された指導案には、非常に感心し、学ぶべきことが多くありました。



(高校数学講座の演習)

2日目の研究授業では、今まで見過していた分野に視点がおかれて、それが教科書の内容に見事につらなる様子をみせていただいたことや、1回の授業を実施するために用意されたばう大な資料等には敬服しました。同じ内容を指導するにしてもその重さは全く違ったものになるだろうなあと思いつきの力不足を痛感したところです。

本当に有意義な二日間でした。どうもありがとうございました。

**演習を通して学んだ教育相談専門講座**

鳥栖市立麓小学校

教諭 日野久美子

「楽しかった。でも、つらかった。」これが受講直後の、私の正直な気持ちでした。

専門講座ですから演習が盛りだくさんです。ロールプレイングでは、クライエント（来談者）の“今”をそのまま受け入れ、本人自身の変容の手助けをするのが、カウンセラーの役割だと教わりました。受容するということが、いかに言葉の上での理解

に陥りやすいかということを実感しました。家族療法でも、受講生同志のあつらえ家族の中に、実際に様々な問題が浮きぼりになり、父母の強い絆が家族に重要であることが明らかでした。

これらの演習も交え、たくさんの先生方と語り合えたのはとても楽しいことでした。その反面、この講座を通して語られる事例や話は、自分自身に振り返ってあてはめずにはおられず、非常につらく感じました。

でも、「また受講してみようかな。」これが今の気持ちです。話をしにくる子供の顔を見ながら、「私のこの子をちゃんと受

**受講者への提言**

## 教育における「国際化」の課題

佐賀大学教育学部 助教授

筒石 賢昭

「国際化」は、近年の我が国の教育界における主要なテーマの一つになっている。政治、経済の変革とともに今後ますます教育・学術・文化の国際交流が盛んになるのはまちがいない。佐賀大学でも年々外国人留学生の受け入れが進み、国際交流会館も建設され、以前とは比較にならないほど交流が進んでいる。しかしこの理念を教育実践の中にどのように生かしていくかについては今後の課題である。特に外国からみると日本はまだこの問題についての取り組みが遅れていると感じざるをえない。というのは、昨年9月から1年間アメリカの大学で研修する機会を持ち、家族ともども過ごしいろいろ考えさせられる点があったからである。そこでの体験を少々述べてみよう。

私が通っていた大学（イリノイ大学）には、114ヶ国からの学生、研究者が集まっており、年齢、服装なども変化に富んでおり、大学のキャンパス自体が地球村の観を呈していた。そこではもはや「外人=foreigner」という概念ではなく、アメリカ国籍以外の学生は「international student」として呼ばれるが、たまたま国籍がアメリカでないだけで、アメリカ人同様に扱われた。私も「foreigner」と呼ばれたことは一度

け入れているだろうか。」という思いが、頭をよぎります。そして、様々な人間関係の中で、つい見失いがちな“自分”を客観的に見直すことはとても大切だと思うのです。



(教育相談専門講座 講師を囲んで)



もなく、特別扱いにされなかつたことが嬉しかった。（もっとも、研究やレポート等でも外国人だからという甘えは許されず、大いに鍛えられる羽目になったが）

私の2人の子どもの学校でも同様である。現地の学校へ通わせたが、親の心配をよそに日本人だからといって、いじめられたり特別な目でみられることもなかった。入学の面接で校長先生が、“何も心配はいりません。教科書は学校にあります。何を着てきても、何を履いて来てもいいです。私の学校は45ヵ国からの子どもが来ていました。同じ格好を徹底されること自体が不可能なのです。”39才の若い教育学博士でもある校長先生のこの言葉に、どれほど親は異国で過ごす不安から解放されたことか。

「この学校では一人ひとりの個性を大切にします。人と異なったり、違った意見を歓迎します。そういう意味でこの学校の意義はあるのです。」もともと一人ひとりは違うという発想から教育論は、議論やディベートをする事でお互いの立場を明らかにし、常に別の角度からの意見を求める。また違う意見でも尊重する。教育の国際化は内なる国際化とも言えようか。

## 指導のチェックポイント

### 小学校学級経営

# 子どもを見つめる学級経営の評価

### 1 はじめに

どんな学級経営にしても、多少のつまずきはあるものだ。しかし、学級経営でつまずいた段階や側面があったにしても、それ自体が問題とはいえない。

そのつまずきを意識的にとらえ、それを乗り越えるためにどう対応したかこそ重要な点である。うまく乗り越えられれば、そのつまずきはより質の高い学級集団を形成していく上でのいいきっかけであったといえる。それに対して、現実につまずいているのにそれに気づかないようであれば学級づくりのいい機会を見失すことになる。

また、教師のつまずきもさることながら、子どもがどこでつまずいているのか、なぜつまずいているのか、などについて的確に把握することも大切である。

### 3 学級経営の自己評価票

※当てはまる評定を○で囲んでください。(A=当てはまる B=どちらともいえない C=当てはまらない)

| 領域        | 評価の観点  | 評定段階                                      |
|-----------|--|---|
| 学級目標の教育設定 | ①学校・学年の教育目標との関連や学級の実態などを勘案して、学級の教育目標を設定しているか。<br>②学級の教育目標は児童一人一人に理解されているか。<br>③学級の教育目標は児童一人一人の行動のなかに、具体的に現れてきているか。<br>④学級の教育目標を具現化するために、計画的に指導を行っているか。   | A B C<br>A B C<br>A B C<br>A B C          |
| 児童の理解     | ①児童一人一人に対し、受容的な態度でのぞみ、共感的な理解に努めているか。<br>②児童一人一人について、学業面での特性を把握しているか。<br>③児童一人一人について、行動や性格についての特性を把握しているか。<br>④児童一人一人について、学級内外における交友関係を把握しているか。<br>⑤家庭の状況、学校への期待、要望などを把握しているか。                      | A B C<br>A B C<br>A B C<br>A B C<br>A B C |
| 学級経営案の作成  | ①学級経営案が作成されているか。<br>②学級の教育目標の具体化のために、それぞれの内容(領域)が筋道立って記入されているか。<br>③学級経営案の利用、活用が図られているか。   | A B C<br>A B C                            |
| 学級集団の指導   | ①学級は集団としてまとまり、温かく認め合い励まし合う人間関係が育ってきているか。<br>②全員参加のしくみが整い、疎外されたり、いじめられたりする児童はいないか。<br>③学習場面での「やる気」や「助け合い」の雰囲気が育ってきているか。<br>④小集団の指導は計画的に進められ、自主的な活動がみられるようになっているか。<br>⑤男女仲よく、互いの立場を尊重しながら活動しているか。    | A B C<br>A B C<br>A B C<br>A B C<br>A B C |
| 教室環境の構成   | ①換気・採光など、健康や安全について配慮しているか。<br>②掲示・展示・黒板の使い方などを工夫し、児童の学習意欲を高める工夫をしているか。<br>③教材・教具の活用や整頓に心がけ、教室の美化に配慮しているか。<br>④児童の活動を豊かにする教室づくりに心がけ、児童の成長が読みとれる構成を工夫しているか。<br>⑤教室内に児童が活動できるコーナーや、活動に必要な用具が準備されているか。 | A B C<br>A B C<br>A B C<br>A B C<br>A B C |

### 2 学級経営の評価の方法

学級経営の評価は、学級教育目標に照らし各学級で独自に行なうことが原則であるが、学年全体、学校全体が共通の評価基準でつまずいた段階や側面があったにしても、それ自体が問題とはいえない。

この場合、他者による評価と担任自身による自己評価とが考えられるが、学級経営改善のためには自己評価の方が望ましい。

そこで、学級担任である各自が自己評価票を作成して、改善を図っていくことが望まれる。

当センターの「学級経営講座」では、自己評価票のモデルを示しそれぞれの学級経営を振り返っているので、それを紹介してみる。

|        |  |                         |
|--------|--|-------------------------|
| 学習指導   | ①学習指導全般について、計画(時間数の確保も含む)を立てて指導しているか。<br>②一人一人の学習意欲を高め、個性や能力に応じた指導を行っているか。<br>③学習形態(一斉・グループ・個別学習)や、指導過程について創意や工夫をこらしているか。<br>④教材研究を行い、一時間一時間の指導を充実させているか。<br>⑤学力の劣る児童の指導を工夫し、落ちこぼさないように配慮しているか。      | A B C<br>A B C          |
| 生徒指導   | ①学級のまわりや生活のめあてを、児童は守ろうとしているか。<br>②学級生活のなかで、児童一人一人の個性や能力が発揮できるように、配慮しているか。<br>③問題のある児童の指導に心かけ、一人一人が生き生きと生活することができるよう配慮しているか。<br>④朝の会や帰りの会は意図通りの成果があげられているか。<br>⑤学校行事の事前事後の指導や、長期の休業の指導などについて、配慮しているか。 | A B C<br>A B C<br>A B C |
| 家庭との連携 | ①学級(学年)通信等の発行を通じ、学級の方針や重点が保護者に理解され、協力が得られているか。<br>②必要に応じて家庭訪問を実施し、家庭との連携を保っているか。<br>③授業参観や学級懇談会では、保護者の協力が得られ、運営できているか。   | A B C<br>A B C<br>A B C |
| 学級事務   | ①日常の学級事務はどこおりなく行っているか。<br>②諸表簿の処理はきちんとできているか。<br>③金銭事務の処理は適確に行っているか。   | A B C<br>A B C<br>A B C |

### 4 おわりに

ここで紹介した自己評価票は一つのモデルにすぎない。目的によって取り上げる内容が異なるのは当然である。学級全体を総合的に評価するのか、人間関係を中心にするのか、あるいは、学習指導か生徒指導のいずれに重点を置くかによっても内容は異なってくる。また、必要な項目が欠けていて評価できない。したがって、何のために何を評価するのかをしっかり考え、それが工夫した自己評価票を作成し活用することが大切である。

学級経営の評価は、評価することがねら

いではなく、よい学級経営を実現するための手段なのである。だから、評価が整然とできあがっていることも重要であるが、それよりもむしろ、こうした評価が実践にフィードバックされる点の方が大切なである。

そうした意味合いからいって、教師が自己評価を行うことが学級経営の本来の在り方といってよいだろう。教師は、自己評価を行うことによって改めて学級経営に対する認識を深め、さらに、その結果の検討によって学級経営を改善することになる。

(研究員 武田 徹)

### 中学校社会科

# 地理・歴史並行学習の指導法の研究

—興味・関心を高める地理・歴史関連学習指導案の作成を中心に—

### 1 はじめに

昭和22年社会科の誕生以来、幾度か教科内容に変遷はあった。先人のご努力により「一人ひとりの個性を生かし、積極的に活動させ興味関心を喚起させる社会的な見方・考え方を深めた授業」の実践報告がなされてきた。だが、今日的課題として生徒たちは「社会科は教科書依存型で知識注入の興味のない暗記教科だ」と不評な教科の一つにあげられている。この実態をふまえて、今後の歴史関連教材の打開策の根本としては、生徒たちが興味と関心をもつ社会科として、我々がどう授業を改善していくかで

あろう。教材を研究し、実践授業を反復していくのも一方策であろう。

いずれにせよ、何らかの前進的な解明への道を辿らねば所期の目的に近づけない。

以上のことを根底に考えて、下記の学習実践を試行してみた。

### 2 指導計画と内容の精選

現指導要領に「広い視野に立って我が国の国土と歴史に対する理解を深め、公民としての基礎的教養を・・・」と述べてある。

この発想には、社会科の内容として地理歴史並行学習を原則しながら実践していくことを意味している。具体的に言うと各分

野の性格を尊重し、分野間の関連を持たせることが大切であり、過去・現代・未来へと社会的な見方・考え方の継続的発展的な伸長を期待しながら教科としての指導が必要であろう。興味関心をもち、継続的発展的な思考の深化伸長を期待するには

①小学校で学習した認識等を十分に活用できるような「てだて」をとる。

②分野間の相互関連性を強化できるよう創意工夫し、内容の精選を図る。

③世界地理の「生活舞台としての地球」

歴史分野の「文明のおこりと日本」は最初に学習するから、内容を総合した融合単元『自然と文明のおこり』を設定する。これは、中学校社会科に対する興味・関心・意欲等を引き出し、学び方を体得する最適な動機づけ、関連づけ、発展への基礎となりうる。

このような学習指導過程を構築すると社会科の目標とする小・中連携の指導効果が円滑になり、以前の地理先習に引きずられることなく、中学3年間を見通した指導計画を立て、興味関心を高める地歴関連の学習指導案作成も可能になるであろう。

### 3 授業実践の一例

各分野の内容構成を組み替え、全面的な関連を図った融合学習の形ばかりでは、各分野の性格を無視することになる。ここでの「関連性」とは、各分野において既習事項をいかに精選し、補充深化させていくかである。下表は、「封建社会の成立」の年間指導計画の一部である。

年間指導計画(歴史的分野)の一例(東京書籍)

| 内 容    | 目 標   | 他 分 野 と 関 連  | 小学校と関連                                    |
|--------|---|--|---|
|        |   | 分 野 と 関 連  | 度 合                                       |
| モンゴル帝国 | モンゴル人による民族の興隆から大帝国成立までの過程を理解させ、帝国が東西交流に大きな役割を果たしたこと気に付かせる。                | 中国の北方、北民族、遊牧民族、モンゴル族、西アジア、南ロシア、中央アジア、大都、イタリアイスラム、ヨーロッパ | 北方のモンゴル人が中国に元という帝国つくり、宗として勢いはヨーロッパまで及ぼした。 |
|        | 度合: 地理的分野の補充と本時の導入としてモンゴル人の生活・自然についておさえる。シルクロードマロコニボーロの行路については歴史地図で軽くふれる。 |  |   |

|    |   |                               |  |
|----|---|-------------------------------|--|
| 元寇 | 元寇の原因・戦いの様子・結果を身近かな資料を使って理解させる。         | 西日本、九州、中国人、朝鮮人、中国、朝鮮、ベトナム、ジャワ | 石のとりで、2度攻めてきた、北条時宗(手紙)元軍3万(暴雨)、数年後また攻めてきた。 |
|    | 度合: この季節の自然条件や元寇の行路・土壌・石壁が造られた位置に気付かせる。 |                               |  |

(所員 宇曾 正規)

この単元は歴史的分野の学習の中でも、地理的分野と関連させうる要素を含んでいる。この学習のねらいは、より効果的な学習を展開するのに小学校での既習事項を随所に生かし、生徒たちが興味関心をもち主体的に学ぶことができるよう配慮している。また、身近な資料の利用について指導し生徒の体験の中から各分野の学習方法をつかみ有機的な関連を図ることができるように配慮した。

| 段階 | 学習内容       | 学習活動  | 指導上の留意点   | 資料                             |
|----|------------|---|---|--------------------------------|
| 導入 | 小学校の復習     | ・モンゴル帝国や元について知っていることを発表する。<br>・チンギス=ハンの写真を見る。             | ・小学校で学んだことを思い出させ、自由に発表させる。<br>・モンゴル帝国について興味をもたらせる。                              | ・写真デジタル=ハン                     |
| 展開 | モンゴルの自然と生活 | ・モンゴルの位置、地形、気候、生活について調べる。<br>・発表する。<br>・モンゴルの歴史の概要を写真で見る。 | ・班でまとめて発表させる。<br>・モンゴルについて補充説明をする。  | ・バネルモソゴル草原バオモンゴル遊牧・TPモンゴル帝国の年表 |
|    | モンゴル帝国     | ・ハンによる蒙古統一から大帝国成立迄を調べる。<br>・史上最大の帝国が成立した理由を考える。<br>・発表する。 | ・歴史資料集を使って調べさせ、支配地の拡大の様子を切り、史上最大の帝国になったことに気づかせる。<br>・「なぜ?」という疑問を資料をもとに自由に発想させる。 | ・ブリントモンゴル帝国の系図モンゴル兵士           |

これは、10月に実施したものに検討を加えたものである。昨今郷土は、生徒にとって近くて遠いものとなってしまった。

「元寇」と深い係りをもつ郷土が、身近なもの、血として流れているものと意識させ社会科に興味関心をもち、学習効果を高めるために学習の継続、発展できれば幸いである。そのために、時数を2から3時間に増やした。学習形態においてもグループ学習を中心とした。その中では個人調べや班別での発表を聞き、メモをとる指導をし生徒中心に働く学習指導の先駆けとなるよう構成してみた。

### 4 おわりに

歴史的分野を中心におき、地理的な既習内容に補充発展学習を試みた。毎時間は無理でも、学期1回は実施したい。社会科の教師は「自らの足で教材を探せ」と言われる程、体験は大切である。社会科を好きな生徒が一人でも増えれば、教師は素材収集のため足が棒になる位の苦労をだれが厭うだろうか。

## 平成2年度 長期研修生紹介

教育センターには、現場の先生方を対象にした「長期研修」制度があります。教科・領域等の専門的研究や、教育実践上の諸問題についての研修を行い、教職員としての資質向上を図っています。

今年も、緑に囲まれた閑静な環境の中に、24名の先生方を「長期研修生」として迎えました。研修期間は主として6か月で、すでに3名の先生が修了され、現在は21名が研修中です。

県内各地の校種、教科、領域を異にした先生方が、教師としての指導力と識見の向上を目指し、各種の教職教養と平行して、自分の研究テーマに基づいた研究を、理論と実践の一本化を図りながら深められています。研修中の「長期研修生」21名の紹介は下記の通りです。

なお、中間報告会は、1月7日、研修成果発表会は3月22~26日の予定です。

| 職名 | 氏 名    | 所 属 名  | 教 科 ・ 領 域 | 研 修 内 容   |
|----|--------|--------|-----------|---|
| 教諭 | 峰 茂樹   | 蕨木小学校  | 小学校国語     | 豊かに読みを深める子どもを育てる指導  |
| 〃  | 古賀 敏文  | 白石 "   | " 社会      | 歴史学習における地域素材の掘り起こしと教材化<br>- 6年生の歴史教材を通して -                      |
| 〃  | 秋山 博   | 旭 "    | " 算数      | 思考実験を取り入れた算数科指導法の研究<br>- 第5学年「単位量あたりの大きさ」の指導を通して -              |
| 〃  | 井上 三義  | 長松 "   | " "       | 一人一人の児童が主体的に取り組む算数科指導法の研究<br>- 見通しを生かす指導を通して -                  |
| 〃  | 林 俊光   | 麓 "    | " 理科      | 理科学習を主体におこなわせる指導法の研究<br>- 学習カードの工夫 -                            |
| 〃  | 谷口 洋一  | 浜 "    | " 道徳      | 自己をみつめる道徳授業の指導法の研究<br>- 値値観の類型化をとりいれて -                         |
| 〃  | 松永 功   | 本庄 "   | " 特別活動    | 主体的に取り組み、意欲的に活動する学級活動の指導法の研究<br>- 低学年の「適応に関する内容」の指導を通して -       |
| 〃  | 本村 悅子  | 鏡山 "   | " 教育相談    | 問題行動に対応する教育相談の実践的研究<br>- 問題行動を示す子どもへのより適切なアプローチを求めて -           |
| 〃  | 田中 安子  | 吉田 "   | " "       | 問題行動に対応する教育相談の実践的研究<br>- 問題を起こす子どもや親へのアプローチを求めて -               |
| 〃  | 坂本 憲昭  | 思齊 "   | " 教育評価    | 教育評価を生かした個人差に応じる学習指導法の研究  |
| 〃  | 山口 隆康  | 有明東 "  | " CAI教育   | 小学校算数科「量と測定」領域におけるパソコンの利用について<br>- 「単位量あたりの大きさ」のコースウェアの開発を通して - |
| 〃  | 石橋 道秀  | 三瀬中学校  | 中学校国語     | 豊かな音声表現力を育てる指導の工夫<br>- 詩教材における群読の指導を中心に -                       |
| 〃  | 森田 利幸  | 鍋島 "   | " 社会      | 生徒が意欲を持ち、主体的に考える地理的分野の指導法の研究<br>- 生活・文化に視点をあたえた教材の開発を通して -      |
| 〃  | 北島 勝典  | 大町 "   | " 道徳      | 価値の自覚化を促す道徳授業の展開<br>- 効果的な資料提示の工夫 -                             |
| 〃  | 小熊 英明  | 諸富 "   | " 教育工学    | 教育工学的手法を取り入れた理科の授業設計<br>- 評価から設計への見直しを通して -                     |
| 〃  | 柴田 精治  | 金泉 "   | " CAI教育   | 中学校技術・家庭科におけるコンピュータの利用について<br>- 「木材加工」領域における教育用ソフトウェアの開発 -      |
| 〃  | 畠山 富士雄 | 大和養護学校 | 小学部特殊教育   | 障害児のタイプ別による感覚統合的訓練効果の比較研究<br>- 精神遅癡児と自閉症児、及びダウン症児について -         |
| 〃  | 森 勝俊   | 有田工業高校 | 高校社会      | 「政治・経済」の経済的分野における主体性の育成に関する研究<br>- 消費者教育を通して -                  |
| 〃  | 大宅 清信  | 東松浦高校  | " CAI教育   | 高等学校数学Ⅰにおける学習履歴を利用した練習演習様式のCAIソフトウェアの開発                         |
| 〃  | 小柳善三郎  | 鳥栖工業高校 | " 情報処理普通  | ペーシック言語学習および「理科Ⅰ」の教材開発  |
| 〃  | 重 宏明   | 唐津商業高校 | " 情報処理商業  | プログラミング言語学習及び「総合実践」・「簿記会計」に関する教材作成                              |

# 私のすすめる「一冊の本」

「四季のうた」 (長崎出版文化協会)

竹下 哲

人は自分の花を咲かせるために生まれてきた。咲いた一輪の花に、肅然とえりを正す心をはぐくむことこそ教育、と語る著者は、「歎異抄」を座右に置き、物質万能の戦後教育への反省から「いのちの教育」「心の教育」を大切にされた。

「心のうた」「いのちのうた」に続いて出されたこの本は、読者に共感を呼び、心の奥深く残るものがある。ぜひ、ご一読ください。

佐賀市立西与賀小学校

校長 鶴田文子

「ふるさとの美と心」 (佐賀新聞社)

監修・執筆 高島 忠平他9名

本書はすべてが新しく撮影されたみどりな図版で飾られ、深い感銘をうけました。よく知られる文化財でも新しい視点を開かれ、眼福を楽しませてくれました。これも、郷土を愛する人が長い間にわたり研鑽され、心をこめて執筆に当たられた結果がよくあらわれていると感心しました。これまであまり語られることのなかった佐賀の美術が、これを機会に大いに顕彰されるものと期待しています。

相知町立相知中学校

校長 志佐惣彦

<お願い>

## 貴校の資料をお寄せください！！

当教育センターにおきましては、図書資料の充実を図るために、県下各学校に、教育的資料をご寄贈くださいますようお願い致します。

研究紀要、調査資料、歴史的資料、記念誌等で、ご寄贈いただけるものであれば何でも結構です。ぜひ、お寄せください。

なお、これまでにご寄贈いただきました資料につきましては、当センター図書資料室に展示保管いたしております。ご来所の折りには、ぜひ、ご覧ください。

「言葉と感動」 (光文書院)

椋 鳩十、大村 はま他6名

教育者として常に心しておくことは、児童に対する「言葉くばり」ではないでしょうか。本書には、この「言葉くばり」の大切さが、8名の著名な教育者によって説かれています。前書きの「感動のあいは、人生を豊かにする」は、言葉を媒体として子どもに感動体験を多く持たせ、人間のあたたかさ、大自然の偉大さを学び取らせようとする名句だと心打たれています。

三根町立三根西小学校

校長 貞松征夫

「ミリンダ王の問い合わせ」 東洋文庫(平凡社)

パーリ写本 中村 元・早島鏡正 訳

この書は、西暦前2世紀後半に西北インドを支配していたギリシア人の国王ミリンダ(メナンドロス)が、仏教の僧であるナガセーナと対談し、仏教教理に関して質問を発して教えを受けたという対話の形式で述べられている。東洋思想の源流であるインドの仏教と西洋思想の源流であるギリシア人(Yonaka)の世界観とが触れあう(少し読みごたえはあるが)まことに面白い対談である。

県立鹿島実業高等学校

校長 堀田正登

次のような内容の図書資料を希望します。

- 研究紀要(文部省指定、教育委員会指定の研究、校内自主研究、グループ研究)
- 調査資料(地域の地理、歴史調査、産業・交通・通信等の調査)
- 歴史的資料(明治・大正・昭和初期の資料で藩校・寺小屋に関するもの)
- 記念誌(○周年記念誌等)

(教育資料係)

